

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	岡田 大爾		
授業科目	教職概論				
英 訳	Introduction of Teaching Profession				
配当年次	1年次 後期	必選別	教免必修	単位数	2単位
【授業の概要】 子どもや社会から求められる教師像、教員の具体的な仕事や役割、服務規程や身分保障、健康管理、資質・能力及び研修等、教職に必要な知識を修得させ、ピア・サポートやグループエンカウンター等の手法を取り入れて具体的な教育場面での子どもとのコミュニケーション力を磨き、教職への動機付けを図るとともに適性を考えさせる。					
【授業の目的】 教師の役割、職務内容等の知識を修得するとともに、教職の意義や使命感についての理解を積み重ねて教職に就くことについて多角的に考え、あわせて自己の適性を考察する。					
【到達目標】 子どもや社会から求められる教師像、教員の具体的な仕事や役割・服務等を理解し、具体的な教育場面での子どもとのコミュニケーション力を身に付け、あわせて自己の適性を判断できる。					
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業の要点をまとめ、授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。 ・ノート・配付プリントを整理し、内容を理解すること。					
【授業計画】 第 1回 教職の意義と教師の役割 第 2回 各種学力テストから見た子どもの学力 第 3回 子どもとその周りの環境の実態 第 4回 教員の仕事と役割 (1) 教科指導 第 5回 教員の仕事と役割 (2) 教科外指導 第 6回 教員の仕事と役割 (3) 学級経営 第 7回 教員の仕事と役割 (4) 学校経営と分掌 第 8回 教員の服務規定と身分保障 第 9回 教師のメンタルヘルス 第10回 最近の教育的諸課題と教育改革 第11回 教員に求められる資質能力と研修の意義 第12回 ピア・サポート 第13回 グループエンカウンター 第14回 進路の具体例 第15回 進路選択と職業観 定期試験					
【教科書】 ・改訂新版 教職入門 教師への道 (吉田辰雄・大森正 共著、図書文化社)					
【参考書】 ・PISA2009年調査 評価の枠組み－OECD生徒の学習到達度調査 (経済協力開発機構 著、明石書店) ・新しい学力テストを読み解く－PISA/TIMSS/全国学力・学習状況調査/教育課程実施状況調査の分析とその課題 (田中耕治 著、日本標準) ・教育法規の要点 第6版 (福本みちよ 著、酒井書店) ・教育に関する保護者の意識調査・子どもとメディアに関する意識調査報告書 (日本PTA全国協議会著)					
【成績評価基準】 ・期末試験(70%)、レポートを綴じたファイル提出(20%)、発表等授業への取り組み(10%)で評価する。					
【メッセージ】 教師には、子どもの成長に貢献できるという大きな喜びがあり、学習や部活動の指導等を通して生徒との一体感や自分自身の成長も感じることができます。学校は、勉強や進路等で困っている生徒の気持ちをよく理解し、どこでつまづいているのかを一緒に考えてくれる教師を望んでいます。勤務地や収入・労働環境・福利厚生が安定し、教育や自己の向上に専念できる魅力もあります。					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	林 孝		
授業科目	教育原理				
英 訳	Principles of Education				
配当年次	2年次 前期	必選別	教免必修	単位数	2単位
【授業の概要】 教育に関する理念を多面的に考察し、教育のあり方について大きな影響を与えた人物の教育思想を幅広く考察するとともに、教育の目的や、内容・方法について、歴史的な展開を踏まえて、現代日本における教育に求められる原理の理解を図り、教師のあり方を考察する。					
【授業の目的】 教育の本質や教育観について理解するとともに、現代における教育の目的や方法及び教師のあり方などの史的・原理的考察を通じて、教育の基礎理論についての幅広い知識・理解を講じる。					
【到達目標】 教育の理念、ならびに教育に関する歴史及び思想について学習し、教育の基礎理論についての幅広い知識・理解を得る。					
【準備学習(予習・復習)】 ・配布された講義資料を予め熟読し、指示する予習のポイントにしたがって準備するとともに、講義内容を整理して復習して次回の学習に臨むこと。					
【授業計画】 第 1回：教育に関する理念 (1) 社会における教育的機能について 第 2回：教育に関する理念 (2) 人間形成の基本と教育の本質について 第 3回：教育に関する理念 (3) 生涯学習について 第 4回：教育に関する思想 (1) 「助成観」－ソクラテス・ルソーほか 第 5回：教育に関する思想 (2) 「助成観」－ペスタロッチー・フレーベルほか 第 6回：教育に関する思想 (3) 「伝達観」パウルゼン・クリークほか 第 7回：教育に関する思想 (4) 「助成観と伝達観の統合」リット、シュプランガーほか 第 8回：教育の目的に関する史的考察 第 9回：我が国の教育の目的と目標 第 10回：教育の内容に関する史的考察 第 11回：我が国の教育課程の編成のあり方 第 12回：教育の方法に関する史的考察と教授学習過程の基本 第 13回：教師論の史的考察と現代日本に求められる教師に関する考察 1－専門職としての教師のあり方 第 14回：現代日本に求められる教師に関する考察 2－教師と生徒の人間関係の基本 第 15回：まとめ 定期試験					
【教科書】 講義資料を準備するとともに、適宜プリント資料を配布する。					
【参考書】 参考図書一覧を準備し、授業において適宜紹介する。					
【成績評価基準】 随時提出させるレポート (30%) 及び試験 (70%) で評価する。					
【メッセージ】 自発・相互の自己学習を基本に、「かかわる → わかる → かわる」時間を学びのなかに創出しましょう。					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	石井 眞治		
授業科目	教育心理学				
英 訳	Educational Psychology				
配当年次	2年次 前期	必選別	教免必修	単位数	2単位
【授業の概要】 教育心理学の基本を学習し、学習理論、認知発達理論、人格理論、テスト理論を概説するとともに、これらの理論から導き出された教授法、テスト作成、教育評価法の技術の実践を通して、教職に必要な教育心理学理論及び指導方法を分かりやすく概説する。					
【授業の目的】 生徒の心身の発達過程を理解し、発達段階に応じた学習支援、人格形成の指導を行うための基礎的知識を修得する。その中では、青年期生徒の心身の発達の特徴、障害のある子どもたちの心身の発達の特徴を理解するとともに生徒理解の方法、教授法、評価法の基礎的な教育技術を修得する。					
【到達目標】 ①生徒の心身の発達過程、特に青年期の知的人格的特徴を理解する。 ②学習過程と種々の教授法を理解し、これらの教授法を利用して指導案が作成できる。 ③テスト作成理論、教育評価法の理論を学習し、適切なテスト問題を作成できる。					
【準備学習(予習・復習)】 授業内容を復習して、不明点は次回に質問すること。授業の中で与えられた課題を期日までに提出すること。					
【授業計画】 第 1回：教育心理学の目的と対象 第 2回：学習者の発達 第 3回：学校教育の場 第 4回：人格理論 (1) 精神分析理論・学習理論 第 5回：人格理論 (2) カウンセリング理論 第 6回：中学生の心理 第 7回：障害のある子どもの心理 第 8回：子ども理解の方法 第 9回：学習と教授 (学習の流れ) 第 10回：学習の動機づけ 第 11回：学習指導の方法 第 12回：学習と個人差 第 13回：教育評価と指導 第 14回：教育測定 第 15回：教育評価の実際と指導					
【教科書】 ・よくわかる学校教育心理学 (森 敏昭 著、ミネルバ書房)					
【参考書】 その都度、紹介する。					
【成績評価基準】 小テスト (40%)、課題提出 (40%)、授業への取り組み (20%) で評価する。					
【メッセージ】 毎回、小テスト及びノート提出を行うので積極的に予習、復習をすること。					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	河野 和清			
授業科目	教育行財政学					
英 訳	Educational Administration and Finance					
配当年次	2年次 後期	必選別	教免必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 現代の公教育制度や教育行財政の理論と構造及び課題について理解を深めるために(1)公教育制度の理念(2)教育行財政の概念と基本的性格、(3)教育法制、(4)教育委員会制度の機能と構造、(5)学校経営の理論と構造、(6)社会教育制度、(7)教育財政、(8)現代の教育政策等の課題について多角的に検討を行う。						
【授業の目的】 わが国の公教育制度や教育行財政制度に関する基本的知識を教育法規と関連づけながら理解する。						
【到達目標】 現代教育に係わる社会的、制度的、又は経営的な事項に関する理解を深めるため、現代の公教育制度や教育行財政の理論と構造についての基礎的知識を学習するとともに、現代公教育制度や教育行財政の課題解決のための方策について考える能力を修得する。						
【準備学習(予習・復習)】 ・毎回の授業内容をよく理解し、不明点は質問すること。 ・授業中に与えられた課題は、レポートとしてきちんとまとめること。 ・授業で多くの資料が配付されるが、配布資料は適宜整理し、よく理解すること。						
【授業計画】 第 1回 : 公教育制度 第 2回 : わが国の教育法制 (1) 教育権の構造 第 3回 : わが国の教育法制 (2) 教育基本法 第 4回 : 教育行政の基本理念 (1) 教育行政の概念 第 5回 : 教育行政の基本理念 (2) 教育行政研究の動向 第 6回 : 教育行政の構造と機能 (1) 文部科学省の役割と構造 第 7回 : 教育行政の構造と機能 (2) 教育委員会制度 第 8回 : 学校経営の構造と機能 (1) 学校経営の構造 (組織) 第 9回 : 学校経営の構造と機能 (2) 学校経営の過程 第 10回 : 教育行政の諸領域 (1) 特別支援教育 第 11回 : 教育行政の諸領域 (2) 社会教育行政 第 12回 : 教育行政の諸領域 (3) 教育財政 第 13回 : わが国教育財政の課題 第 14回 : 現代の教育政策の動向 第 15回 : まとめ 定期試験						
【教科書】 教科書は特に使わないが、講義の中で随時、関連資料を配付する。						
【参考書】 ・河野和清編著『現代教育の制度と行政』福村出版、2008年 ・河野和清編著『新しい教育行政学』ミネルヴァ書房、2014年						
【成績評価基準】 成績評価は、原則として期末試験 (60%) とレポート (40%) で行う。						
【メッセージ】 教育という営みが、広く社会的・政治的文脈の中で行われていることを理解してほしい。						

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	吉富 芳正、岡田 大爾		
授業科目	教育課程論				
英 訳	Introduction of Curriculum				
配当年次	3年次 後期	必選別	教免必修	単位数	2単位
【授業の概要】 学校教育の基本的な考え方から始め、学校教育の役割を教育法規、学習指導要領、学校の教育方針等をふまえた教育課程(カリキュラム)について理解し、その編成の方法について実践的に検討する。 その中で「学校運営における危機管理」、「総合的な学習の時間」、「選択教科」、「教科外活動」など学校の特色を生かすカリキュラムについても実践的に取り扱う。					
【授業の目的】 教育課程の意義を理解するとともに、教育課程(カリキュラム)編成の基本に則り、教科学習、教材、教育方法、教科外学習、教育方針の特色等を考慮した教育課程の編成方法について知る。					
【到達目標】 教育課程(カリキュラム)編成の基本に則り、教科学習、教材、教育方法、教科外学習、教育方針の特色等を考慮した教育課程の編成を行うことができる。					
【準備学習(予習・復習)】 ・ノート・配付プリントを整理し、内容を理解すること ・授業の中で与えられた課題をまとめること					
【授業計画】 第 1回 教育課程の基本 (担当：吉富 芳正) 第 2回 教育課程に関する法規 (担当：吉富 芳正) 第 3回 学習指導要領の意義と役割 (担当：吉富 芳正) 第 4回 学習指導要領の歴史的変遷 (担当：吉富 芳正) 第 5回 教育課程編成における学習内容と評価との関わり (担当：吉富 芳正) 第 6回 学習指導要領を生かすための学習環境 - 設備・教科書・学習材 - (担当：吉富 芳正) 第 7回 小・中・高等学校のカリキュラム開発の課題 (担当：吉富 芳正) 第 8回 学校運営における危機管理－安全を確保する学習環境とカリキュラム (担当：吉富 芳正) 第 9回 学校の特色・生徒の個性を生かすカリキュラム (担当：岡田 大爾) 第10回 特色ある学校づくり (1) 総合的な学習の時間 (担当：岡田 大爾) 第11回 特色ある学校づくり (2) 選択教科、教科外活動など (担当：岡田 大爾) 第12回 特色ある学校づくり (3) カリキュラムと評価 (担当：岡田 大爾) 第13回 教育課程 (カリキュラム) 編成の実例 (1) 中学校の例 (担当：岡田 大爾) 第14回 教育課程 (カリキュラム) 編成の実例 (2) 高等学校の例 (担当：岡田 大爾) 第15回 総括 (担当：岡田 大爾) 定期試験					
【教科書】 ・実践に活かす教育課程論・教育方法論 (樋口 直宏、林 尚示、牛尾 直行 編著、学事出版) ・特色ある教育活動の展開のための実践事例集－「総合的な学習の時間」の学習活動の展開－中学校・高等学校編(文部省 大日本図書) ・中学校学習指導要領 ・高等学校学習指導要領					
【参考書】 ・現代中等教育課程入門(吉富芳正 編著、明星大学出版部) ・教育課程論 (柴田義松 編著、学文社)					
【成績評価基準】 前半内容のテスト(40%)、授業への取り組み(10%)及び後半のレポート(30%)、発表質疑(20%)で評価する。					
【メッセージ】 教育基本法や教育三法の改正・学習指導要領等の学習を積んだ上で、自分が文科大臣や校長になったつもりで、社会情勢が変化する中で、国・地方・教育委員会・地域からの指導や協力を得ながら、生徒にとって最も良いカリキュラムをつくる仕組みと具体例を考えていきましょう。					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	岡田 大爾		
授業科目	道徳教育の指導法				
英 訳	Methodology of Moral Education				
配当年次	3年次 後期	必選別	中学校教免必修	単位数	2単位
【授業の概要】 人間にとっての「心」の大切さを実感し、教師として道徳の時間を中心に全教育領域でいかに工夫して心にせまるように教育していくのかを考え、そのための力量形成をめざして行う。講義の主な内容を中学校における道徳教育の諸問題に関する考察とし、現代社会と道徳教育の意義、目標、内容、方法、実践、評価などを中心に学習する。					
【授業の目的】 自ら考え、自ら振り返り、よりよく生きたいと思うことを通して、生きる力を育成するための道徳教育の指導・支援及び評価のあり方を理解し、指導のあり方を振り返って工夫・改善を行うことができるようになることを目標とする。特に、教育者自身が道徳の大切さを深く自覚し、意欲的に自分自身の感性を磨き、道徳の授業を中心として全教育活動において生徒の道徳性の発達を促すために積極的に工夫することを目標とする。					
【到達目標】 ・道徳教育の意義と指導・評価を理解した上で、指導案を作成して模擬授業を行い、反省点を改善できる。					
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。					
【授業計画】 第 1回 現代社会と道徳の意義 第 2回 道徳教育の目標 第 3回 道徳教育の計画 第 4回 道徳教育の指導方法 第 5回 道徳教育の評価 第 6回 心にせまる道徳の授業 第 7回 役割演技を取り入れた授業 第 8回 道徳的葛藤とオープン・エンドの授業 第 9回 教科、特別活動、総合的な学習等との連携 第10回 家庭、地域社会との連携 第11回 読み物資料、新聞、テレビ、マンガ、日常生活等からの教材作り 第12回 指導案の作成 第13回 模擬授業 (1) 読み物資料、ビデオ資料、心のノート等の活用 第14回 模擬授業 (2) 新聞、テレビ、マンガ、日常生活等からの自作教材の活用 第15回 道徳教育のさまざまな可能性					
【教科書】 ・中学校学習指導要領（平成20年9月）解説—道徳編—（文科省 日本文教出版）					
【参考書】 ・「心のノート」を生かす道徳授業 中学校（金井肇・全国道徳授業実践研究会編、明治図書） ・道徳授業の新しいアプローチ10（諸富祥彦 編、明治図書） ・モラルジレンマ資料と授業展開 中学校編（第2集）（荒木紀幸 編、明治図書） ・「心のノート」を活かした道徳教育の展開—「心のノート」活用事例集—（文科省 著、暁教育図書） ・「とっておきの道徳授業 中学校編」（桃崎剛寿 編著、日本標準）のシリーズなど					
【成績評価基準】 指導案を含むレポート(50%)、模擬授業・討論(50%)で評価する。					
【メッセージ】 生徒に道徳を教えるためだけでなく、自分達の生き方について深く考え、みんなと協議することができ、自分の今や将来の生き方を考える意味でも有益と思います。 中学校免許取得の場合のみ必修ですが、高校でも道徳教育の重要性が増しています。					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	岡田 大爾			
授業科目	特別活動の指導法					
英 訳	Methodology of Special Activities					
配当年次	3年次 後期	必選別	教免必修	単位数	2単位	
【授業の概要】						
望ましい集団活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるために、学級活動、生徒会活動、学校行事等の指導法を参考にしながら、特別活動の視点、指導上の注意、評価等の技術を修得する。						
【授業の目的】						
生徒自ら考え、自ら行動し、自ら振り返ることを通して生きる力を育成する特別活動の目的や指導・支援及び評価のあり方を考える。特に、学生自身が生徒の実践力を伸ばすために学級活動・生徒会活動・学校行事等について工夫し、積極的に指導計画を練って活用しようとする意欲と実践力を高める。						
【到達目標】						
特別活動の目的と指導・評価を理解した上で、指導案を作成して模擬授業を行い、反省点を改善できる。						
【準備学習(予習・復習)】						
・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること						
【授業計画】						
第 1回 中学校・高等学校の現状・課題と特別活動への期待						
第 2回 特別活動の教育的意義と各教科・道徳・総合的な学習の時間等との関連						
第 3回 特別活動を指導する視点、生徒の活動を評価する観点						
第 4回 学級活動の活動内容と実際 (1) 学級や学校の生活の充実						
第 5回 学級活動の活動内容と実際 (2) 個人や社会、健康・安全						
第 6回 学級活動の活動内容と実際 (3) 学業生活の充実と進路						
第 7回 生徒会活動の意義と活動内容						
第 8回 生徒会活動の実際						
第 9回 学校行事の意義と活動内容						
第10回 学校行事の実際						
第11回 指導計画の作成に当たっての配慮事項						
第12回 特別活動の年間指導計画の作成						
第13回 指導案の作成						
第14回 模擬授業						
第15回 まとめ						
【教科書】						
・中学校学習指導要領（平成20年9月）解説―特別活動編―（文科省、ぎょうせい）						
・高等学校学習指導要領解説―特別活動編―（文科省、海文堂出版）						
【参考書】						
・新しい特別活動指導論（高旗正人・倉田侃司 編著、ミネルヴァ書房）						
・特別活動と人間形成（山口満 編著、学文社）						
・深く考え、実践する特別活動の創造―自己理解と他者理解の深まりを通して（原清治・檜垣公明 編著、学文社）						
・主体的な実践力を育てる特別活動（広島大学附属三原中学校）						
・キャリア教育体験活動事例集（国立教育政策研究所生徒指導研究センター 著、実業之日本社）						
・評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）						
【成績評価基準】						
指導案を含むレポート(50%)、模擬授業・討論(50%)で評価する。						
【メッセージ】						
生徒が将来にわたって人生を切り開いていく「生きる力」を身に付けさせる上で特別活動は大変有効で、その指導法の工夫で生徒の生き生きと人生を切り開いていく力を伸ばすことができるとともに、学生自身の主体性をも伸ばすことができます。						

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	岡田 大爾		
授業科目	教育方法論				
英 訳	Methodology on Education				
配当年次	2年次 前期	必選別	教免必修	単位数	2単位
【授業の概要】 授業の目的や生徒の願いにそった授業とは何かを考え、教材開発の視点や発問の切り口、授業の流れ、評価等の技術を学び、教育効果を高めるために最適の教育方法、教育機器、教材等を選択し、より効果的に活用する方法を考える。実際に活用例を発表・議論し合い、教育課題解決をめざしてよりよい方法を探る。					
【授業の目的】 生徒にとってわかる授業・おもしろい授業を目指して、教材、発問、授業の流れ、評価を工夫し、効果的な教育機器やその利用法をさぐり、試みる。そして、授業方法を振り返ってPDCAサイクルで工夫・改善を行い続ける。その際、情報機器やWeb上のコンテンツ、テレビ、新聞、本、ビデオ等をいつでも自由に活用できる技術と生徒の学習意欲が高まる使い方を工夫することの面白さを味わい、普段から工夫しようとする姿勢を育てる。					
【到達目標】 ・生徒が興味を持つ授業を目指して工夫し、効果的な方法や機器をさぐり、試み、自己評価し、改善する。 ・生徒の情報活用能力を伸ばすために、自身が積極的・効果的に情報活用し、自己評価し、改善する。					
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・授業の中で与えられた課題をまとめること					
第 1回 問題解決学習と系統学習、発見学習 第 2回 動機付けと教師期待効果 第 3回 学習意欲 第 4回 指導と支援 第 5回 学習指導の形態と学習環境 第 6回 教授の三角形と教材・発問 第 7回 教育評価 第 8回 授業の設計 第 9回 教育情報機器及びソフトウェアの活用 第10回 教材の活用 第11回 言語活動の充実 第12回 学習指導案 第13回 教育実践 第14回 授業評価 第15回 教育のPlan Do Check Actionサイクル、まとめ					
【教科書】 ・実践に活かす教育課程論・教育方法論 (樋口直宏・林尚示・牛尾直行 編著 学事出版) ・言語活動の充実に関する指導事例集 中学校版・高等学校版 (文科省)					
【参考書】 ・教育の方法 (佐藤学 著、放送大学叢書) ・科学的根拠で示す学習意欲を高める12の方法 (辰野千壽 著、図書文化) ・意欲を引き出す授業デザイン (鈴木誠 著、東洋館出版社) ・言語活動実践ガイド (広島県教育委員会 編著、ぎょうせい) ・広島県教育資料 (広島県教育委員会 著)					
【成績評価基準】 ・レポート提出(70%)、発表・議論等の授業への取り組み(30%)で評価する。					
【メッセージ】 学習指導案を作成するためには、様々な教材・教育方法・評価の知識とともに生徒の気持ちや考え方のパターン等をしっかりと見極められる目を鍛える必要があります。みんなで議論しながら高め合いましょう。					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	岡田 大爾			
授業科目	生徒・進路指導論					
英 訳	Student Guidance and Career Education					
配当年次	2年次 後期	必選別	教免必修	単位数	2単位	
【授業の概要】 教科指導、教科外指導、進路指導等の教育活動の諸側面における生徒指導の意義と役割を具体的な指導例を通して学ぶ。						
【授業の目的】 青少年非行等の対策という消極的な面だけでなく、積極的に、すべての生徒のそれぞれの人格により良き発達を目指すとともに、進路を見つめ、学校生活が、一人一人にとって、有意義に、かつ興味深く充実したものになるようにするという生徒指導・進路指導の意義の理解と実践力を身につける。						
【到達目標】 ・生徒指導・進路指導の意義を理解して多くの事例を積極的に議論・分析し、活用して実践しようとする。						
【準備学習(予習・復習)】 ・ノート・配付プリントを整理し内容を理解すること。 ・授業の中で与えられた課題をまとめること。						
【授業計画】 第 1回 生徒指導の目的とガイダンス機能の充実 第 2回 生徒理解 第 3回 集団心理といじめ 第 4回 不登校 第 5回 校則と問題行動 第 6回 生徒の主体性、個性と進路 第 7回 学業指導、考える力・実行する力の育成 第 8回 キャリア・カウンセリング 第 9回 体験的学習の有効性 第10回 進路指導の実際 第11回 問題行動に関する防止学習プログラム 第12回 ピア・サポート、グループ・エンカウンター 第13回 ロールプレイ 第14回 学校運営と生徒指導、進路指導体制 第15回 学校と関係機関等との連携、総括						
【教科書】 ・生徒指導提要(文部科学省 著、教育図書出版)						
【参考書】 ・生徒指導の理論と方法3訂版(江川政成 編、学芸図書) ・「ガイダンスの機能の充実」によるこれからの生徒指導、特別活動(高橋哲夫・今泉紀嘉・森嶋昭伸 編) ・学級づくりのためのQ-U入門(河村茂雄 著、図書文化) ・生徒指導のてびき(広島県教育委員会 著) ・いじめの構造—なぜ人が怪物になるのか(内藤朝雄 著、講談社) ・いじめの構造(森口朗 著、新潮社) ・生徒指導・進路指導の理論と実際(河村茂雄 編著、図書文化社) ・不登校への対応と学校の取り組みについて(国立教育政策研究所生徒指導研究センター 著、ぎょうせい) ・生きる力を育む生徒指導(宮下一博・河野荘子 編著、北樹出版) ・規範意識をはぐくむ生徒指導体制(国立教育政策研究所生徒指導研究センター 著、東洋館出版社) ・学校と関係機関等との連携(国立教育政策研究所生徒指導研究センター 著、東洋館出版社)						
【成績評価基準】 レポート提出(70%)、発表・質疑等の授業への取り組み(20%)、ロールプレイ(10%)で評価						
【メッセージ】 生徒の生育環境や価値観は多様化し、生徒理解能力とコミュニケーション能力を求められます。様々な活動に積極的に参加し、様々な考え方に触れるとともに、意見交換を行い、対人関係能力を伸ばしましょう。						

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	石井 眞治		
授業科目	教育相談				
英 訳	Counseling				
配当年次	3年次 後期	必選別	教免必修	単位数	2単位
【授業の概要】 生徒の心を理解し、教員との距離を親密にする指導法や、学校・関係機関の連携についての知識を身に付け、学校における教育相談を実践的に考える。また、カウンセリングの基礎的知識の講義・カウンセリングの基礎的技術の演習により模擬教育相談場面を実施する。					
【授業の目的】 「学習指導」とともに学校現場での中心課題である「教育相談」を教師として実践していく上で必要な教育相談理論を理解し、これらの理論から導き出された学校教育相談(カウンセリング)の方法、さらには具体的なカウンセリングについての基礎的な知識と技術を修得する。					
【到達目標】 ①教育相談の意義を理解する。 ②学校教育相談で利用されている教育相談理論をそこから提起された教育相談技法を理解する。 ③カウンセリング演習をとおして、基礎的なカウンセリング理論を使用して、学校場面での教育相談が実施できるようにする。					
【準備学習(予習・復習)】 ・授業の要点をまとめ、理論と技法との関連を理解すること。 ・授業で行った教育相談を整理し、振り返りをおこなうこと。					
【授業計画】 第 1回：教育相談の教育的意義 (1) 生徒指導と教育相談 第 2回：教育相談の教育的意義 (2) 教育相談の目標と指導原理 第 3回：教育相談の課題 (1) 指導内容からみた教育相談の課題 第 4回：教育相談の課題 (2) 教育相談の担当者に求められる資質 第 5回：教育相談の対象 (1) 児童・生徒の問題行動 第 6回：教育相談の対象 (2) 反社会的行動 第 7回：教育相談の対象 (3) 非社会的行動 第 8回：学校教育相談の進め方 (1) 学校教育相談で取り扱う問題 第 9回：学校教育相談の進め方 (2) 児童・生徒理解の方法 第 10回：学校教育相談の進め方 (3) 学校教育相談で利用できる行動療法理論と技法 第 11回：学校教育相談の進め方 (4) 学校教育相談で利用できるカウンセリング理論と技法 第 12回：学校教師のためのカウンセリング (1) 傾聴的態度の演習 第 13回：学校教師のためのカウンセリング (2) 共感性の演習 第 14回：学校教師のためのカウンセリング (3) 促進的態度の演習 第 15回：学校教師のためのカウンセリング (4) 模擬教育相談					
【教科書】 ・学校教師のカウンセリング基本訓練 (上地安昭著、北大路書房)					
【参考書】 その都度、紹介する。					
【成績評価基準】 小テスト (30%)、課題提出 (50%)、授業への取り組み(20%)で評価する。					
【メッセージ】 授業の中で指示された課題については積極的に調べる。教育相談は振り返りが大切なので、授業の中で与えられた課題を整理すること。					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	岡田 大爾 間田 泰弘		
授業科目	教育実習指導				
英 訳	Guidance of Teaching Practice				
配当年次	4年次 前期	必選別	教免必修	単位数	1単位
【授業の概要】					
中・高等学校の教師として必要な資質を育成するための実践的学習を事前指導・事後指導を組み合わせで行う。実習校によって時期が異なるので、事前指導と事後指導の内容は個別に調整する。					
【授業の目的】					
教育実習における教師としての心構えや、授業に対する実践的態度を理解し実習に備える。また、教育実習後は、自己評価をするとともに他者を参考にして向上を図る。					
【到達目標】					
<ul style="list-style-type: none"> ・目指す教科の学習指導案を作成することができる。 ・模擬授業ができる。 ・教育実習に必要な知識と態度について理解する。 					
【準備学習(予習・復習)】					
予習：教育資料を読んでおくこと。 復習：黒板を使って授業の練習をすること。					
【授業計画】					
第 1回：教育実習の意義と目的					
第 2回：社会人としての常識と規範意識					
第 3回：教職員としての服務とは					
第 4回：教師および社会人としての礼儀とモラル					
第 5回：教育実習生としての義務、態度					
第 6回：生徒への理解と交流上の注意					
第 7回：表現・コミュニケーション					
第 8回：板書等、視聴覚機器の利用上の注意					
第 9回：わかりやすい授業とは（各教科教育法で履修済みの場合は重複するが、視点が異なる）					
【この段階までに実習が始まる学生に対しては個別指導】					
第10回：模擬授業（学習指導案作成の準備－教科教育法で履修済みであっても視点は異なる）					
第11回：模擬授業（学習指導案作成－教科教育法で履修済みであっても視点は異なる）					
事後指導 【この段階までに実習が終了した学生に対しては個別指導】					
第12回：教育実習の反省と自己評価・相互評価					
第13回：礼状等、文書、書類の形式					
第14回：必要な文書の作成練習					
第15回：まとめ（教育実習の経験を今後の社会人として生かすには）					
【教科書】					
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校または高等学校学習指導要領 ・中学校または高等学校の各種教科書 ・必要に応じて配布する資料 					
【参考書】					
実習教科に関する資料					
【成績評価基準】					
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導案・模擬授業等（70%）、マナーの習得等授業への取組み（30%）で評価する。 ・3年生の段階で必要な単位が取得できていないものは、教育実習を許可しない。 					
【メッセージ】					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習のシラバスを読み、理解しておくこと。 ・社会人としての良識を身に付けておくこと。 ・教員免許の必修 					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	岡田 大爾 間田 泰弘		
授業科目	教育実習A(これは高等学校教育実習を兼ねる)				
英 訳	Teaching Practice A				
配当年次	4年次 前期	必選別	中学校教免必修 (高校教免を兼ねる)	単位数	4単位
【授業の概要】 学校の運営を直接参観するとともに、授業を実際に体験し、教職に就くにあたっての事前の実践を行う。					
【授業の目的】 授業を実際に体験することによって教職に対する意欲を高め、教科および教科外指導に対する実践的指導力を習得する。					
【到達目標】 ・実習教科の教材研究が十分できる。 ・生徒にとって分かりやすい授業ができる。 ・学校のルールに従った行動ができる。					
【準備学習(予習・復習)】 ・日々の教材研究、および授業の練習。 ・実習校における授業を参観させていただき、自らの実践に生かすこと。					
【授業計画】 以下の内容を実習校の指導の下で履修・体験する。 ・中学校における業務の概要 ・教職に対する理解 ・守るべき義務の実践 ・中学生に対する理解 ・学級運営の参観と、指導教員の指示の下での参加 ・担当する学習指導案の作成 ・学習細案の作成 ・授業および指導力を高めるための教材研究 ・実践的指導力の向上 ・指導教員の指示の下での活動体験 ・その他 実習校が必要と認めた内容					
【教科書】 ・中学校学習指導要領 ・中学校の各種教科書 ・必要に応じて中学校から配布される資料					
【参考書】 ・実習教科に関する資料					
【成績評価基準】 実習校を訪問して履修状況を聴き、学習指導案等の準備と仕上がりを観察する(50%)とともに、実習校の評価等(50%)を判定材料にして総合的に評価する。					
【メッセージ】 ・別途開講される「教育実習指導」を履修すること。 ・実習に適さないと判断したものは受講を許可しない。 ・実習校の指示に従い、態度・マナーに注意すること。 ・中学校教員免許の必修(高等学校教育実習を兼ねる)。					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	岡田 大爾 間田 泰弘		
授業科目	教育実習B				
英 訳	Teaching Practice B				
配当年次	4年次 前期	必選別	高免のみの場合必修	単位数	2単位
【授業の概要】 学校の運営を直接参観するとともに、授業を実際に体験し、教職に就くにあたっての事前の実践を行う。					
【授業の目的】 授業を実際に体験することによって教職に対する意欲を高め、教科および教科外指導に対する実践的指導力を習得する。					
【到達目標】 ・実習教科の教材研究が十分できる。 ・生徒にとって分かりやすい授業ができる。 ・学校のルールに従った行動ができる。					
【準備学習(予習・復習)】 ・日々の教材研究、および授業の練習をしておくこと。 ・実習校における授業を参観させていただき、自らの実践に生かすこと。					
【授業計画】 以下の内容を実習校の指導の下で履修・体験する。 ・高等学校における業務の概要 ・教職に対する理解 ・守るべき義務の実践 ・高校生に対する理解 ・学級運営の参観と、指導教員の指示の下での参加 ・担当する学習指導案の作成 ・学習細案の作成 ・授業および指導力を高めるための教材研究 ・実践的指導力の向上 ・指導教員の指示の下での活動体験 ・その他 実習校が必要と認めた内容					
【教科書】 ・高等学校学習指導要領 ・高等学校の各種教科書 ・必要に応じて高等学校から配布される資料					
【参考書】 実習教科に関する資料					
【成績評価基準】 実習校を訪問して履修状況を聴き、学習指導案等の準備と仕上がりを観察する(50%)とともに、実習校の評価等(50%)を判定材料にして総合的に評価する。					
【メッセージ】 ・別途開講される「教育実習指導」を履修すること。 ・実習に適さないと判断したものは受講を許可しない。 ・実習校の指示に従い、態度・マナーに注意すること。 ・教育実習Aを履修しない場合は、高校教員免許の必修。					

区 分	教職科目－教職に関する科目	担当教員	岡田 大爾、李木 経孝 竹野 健次、神垣 太持		
授業科目	教職実践演習（中・高）				
英 訳	Seminar in the Teaching Profession Practice (Junior High School and High School)				
配当年次	4年次 後期	必選別	教免必修	単位数	2単位
【授業の概要】 これまでの教職課程の学修を振り返り、教職の意義・責任について自觉を高め、社会性や対人関係能力等の向上を図る。さらに、生徒理解、学級経営等の課題意識を高めた上で、学校現場の見学・調査を行ない、実践の深さを実感するとともに自己の課題を分析する。そして、教科内容等の指導力について分析を深めるとともに授業を批評する目を養い、模擬授業をしながら、授業力の分析・改善を行なう。最後に自分の資質能力の確認を行なって課題を明らかにし、PDCAサイクルの自己指導力の重要性に気づかせる。グループ討論・ロールプレイングや能力トレーニング等を積極的に取り入れる。					
【授業の目的】 教職の意義、教師の役割・責任を自覚し、教科指導・学級経営・生徒理解・対人関係能力等の力量を向上させる。自己の資質能力を確かめながら教師としての総合実践能力の向上を目指す。					
【到達目標】 ・教科内容の基礎、教育法の基礎をもとに、実践的な教材開発力・生徒理解力・授業実践力を身につける。					
【準備学習(予習・復習)】 ・授業の中で与えられた課題をまとめること。 ・ノート・配付プリントを整理し内容を理解すること。					
【授業計画】 第 1回 これまでの学修の振り返り 第 2回 教職の意義・教員の役割、職務内容、子どもに対する責務 第 3回 社会性と対人関係能力（組織の一員としての自覚、保護者・地域の関係者との人間関係の構築） 第 4回 ソーシャルスキル・対人関係能力トレーニング 第 5回 生徒理解と学級経営 第 6回 学級経営案の作成・討論 第 7回 学校現場の見学・調査 第 8回 社会性と対人関係能力（グループ討論） 第 9回 生徒理解と学級経営（グループ討論） 第 10回 教科内容等の指導力 第 11回 学習指導案・教材等の作成・修正 第 12回 模擬授業・討論（1） 第 13回 模擬授業・討論（2） 第 14回 教科内容等の指導力（グループ討論） 第 15回 資質能力の確認、まとめ （主な担当：岡田は、全ての回について講義・実習の指導・助言を担当、李木・竹野・神垣は、第 10 回～第 14 回の各グループに分かれての「教科内容から見た学習指導のあり方」の指導・助言を担当）					
【教科書】 ・各教科の『学習指導要領解説』（文部科学省） ・生徒指導提要（文部科学省著、教育図書出版） ・実践に活かす教育課程論・教育方法論（樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著、学事出版） ・教職入門（吉田辰雄・大森正 編著、図書文化） ・文科省「言語活動の充実に関する指導事例集」					
【参考書】 ・ピア・サポートではじめる学校づくり 中学校編』（滝充編著、金子書房） ・実践！ソーシャルスキル教育（相川充・佐藤正二編、図書文化） ・学級経営実践チェックリスト（有村久春編、教育開発研究所）					
【成績評価基準】 レポート提出(70%)、模擬授業(20%)、討論(10%)で評価する。					
【メッセージ】 該当教科の教職免許を得るのにふさわしい力量をつけるため、様々な観点から自分を鍛え、学校現場に求められる人材となれるようにがんばりましょう。教科専門の立場から十分研究しているかも評価されます。					